鎌刃城跡が国史跡に　文化審議会が答申　［米原町］

昨年11月19日に文化庁で開かれた文化審議会で米原町番場に所在する鎌刃城跡を国指定史跡とするよう答申が出されました。米原町で国指定史跡は初めてのことです。また、合併後の新市では、昨年２月に指定された伊吹町の京極氏遺跡－京極氏城館跡・弥高寺跡－が国指定史跡の城跡としてあり、鎌刃城跡が２件目になります。１つの自治体で２件以上の国指定史跡の城跡を有するのは全国的にも珍しいことで、今後のまちづくりにも大きな期待が持たれています。

米原町教育委員会では、今回の答申が出たことを記念しまして、右記のとおり講演会を開催いたします。これからさらに熱くなる鎌刃城を知り、あなたも歴史の目撃者になりませんか？

お問合せについては米原町教育委員会生涯学習課まで

ＴＥＬ　０７４９－５２－６６３２
ＦＡＸ　０７４９－５２－２２４２
E-mail　shougai@maihara.com

鎌刃城跡国史跡答申記念講演会
「鎌刃城が語る戦国の城
～今、明らかにされる戦国城郭の実像～」
基調講演
「鎌刃城調査の意義」村田 修三 氏（大阪大学名誉教授）
日　時　　平成17年１月23日(日)
午前10時30分～午後４時30分
場　所　　米原町中央公民館
定　員　　500名　　参加費　　無　料

情報ＢＯＸ

◆近江町教育委員会では、今回紹介した定納古墳群発掘調査の現地説明会資料を発行しています。
『定納１号墳発掘調査現地説明会資料』2004
『定納５号墳発掘調査現地説明会資料』2003

◎問合せ先
近江町教育委員会　℡0749-52-3483
E-mail K-shakai@town.omi.shiga.jp

◆伊吹町教育委員会では、児童生徒向け学習資料『ふるさと伊吹探訪シリーズ』6～10集を発行しました。町内の子どもたちに配布するほか、各学校に配置します。
『伊吹のあゆみ　ふるさと歴史読本』（シリーズ６）
『ヤマトタケルと伊吹山』（7）
『戦国の城を歩こう　京極氏の上平寺城』（8）
『伊吹のオコナイ』（9）
『曲谷臼と吉槻の石仏』（10）
※いずれも、Ａ５判、30頁、カラー刷り

◎問合せ先
伊吹山文化資料館　℡0749-58-0252

◆◆編集後記◆◆

『佐加太』もお陰様を持ちまして第21号を刊行することができました。ただ、坂田郡社会教育研究会文化財部会としての刊行はこれが最後となります。2005年２月14日に山東町・伊吹町・米原町が合併して米原市が誕生します。さらに2005年10月１日には近江町も加わり坂田郡はひとつになり米原市となります。■教育委員会事務局は現在の山東町役場となり、文化財担当部局として文化スポーツ振興課が設置されます。■担当者でありますキンちゃん、みねちゃん、のりゆき、さらに新人みっつぁんも文化スポーツ振興課へ配属がきまり新市の文化財保護行政の立ち上げに燃えています。■次回は米原市教育委員会が刊行する『佐加太22号』で皆様とお会いできることを楽しみにしております。今後一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます　（渡連恥）

坂田郡文化財ニュース
佐　加　太　第 21 号
発　行　平成17年１月15日
編　集　坂田郡社会教育研究会文化財部会
事務局　〒521-0314　滋賀県坂田郡伊吹町春照37
伊吹町教育委員会生涯学習課
TEL. 0749(58)1121
印　刷　立木印刷

坂田郡文化財ニュース
佐加太

第 21 号
２００５年１月15日
滋賀県坂田郡社会教育研究会
文　化　財　部　会

佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

定納１号墳の調査　［近江町］

長浜平野の東側を南北に伸びる横山丘陵の南端から天野川右岸にかけて拡がる近江町息長古墳群は、いくつかの小規模古墳群で構成されています。そのうちの一画をなす定納古墳群は丘陵上に築かれており、琵琶湖、東海道本線・新幹線、北陸自動車道・名神高速道路等を一望のもとに見渡せる交通の要衝に位置します。古墳群は９基以上で構成され、このうち２基は北陸自動車道の建設時に調査をされることなく消失してしまいました。

近年まで同古墳群は３基の前方後円墳を中心に円墳や方墳で構成されていると考えられており、1992年にまとめられた『前方後円墳集成』という本にも紹介されています。その後、京都大学文学部考古学研究室の有志によって測量調査が実施され、1998年の報告によって古墳群の実態がはじめて明らかにされました。しかしながら今回の調査直前まで、この古墳群は荒廃した里山の中に埋もれ、雑木と枯倒木が密集するなか、足を踏み入れることのできない状態にありました。

定納古墳の発掘調査は、大手前大学史学研究所（兵庫県西宮市）と近江町教育委員会が合同で2002年より実施しており、今年度で３年目になります。

調査の結果、尾根上の古墳群は北側から順に築造されたことがわかるようになりました。今年度調査した定納１号墳はもともと前方後円墳と思われていましたが、調査の結果「前方後方墳」と「方墳」に分離することがわかりました。

定納１号墳は全長約22ｍ。後方部の長さは15ｍに対して前方部は７ｍと短い点が特徴です。現存する後方部頂の高さは2.6ｍあり、墳丘の斜面は比較的急なものであったようです。葺石や埴輪はありません。すでに墓壙上部を失っており、表土直下で主体部を検出しました。

この古墳は築造に特徴をもっています。丘陵の粘土層を古墳の形に沿って削りだし、４ｍ近い幅の平らな面をつくりだしています。削って生まれた土を盛り上げて高い墳丘を形作っています。また前方部端の東寄り部分からは、南に伸びる幅1.5ｍ規模の陸橋状土手が２箇所で確認されました。

埋葬施設は、後世に掘られた穴や溝による攪乱によって多くの部分が破壊されています。残存部の調査からは長さ４ｍ近い長大な木棺を穴の中に納めたものであることが判明しました。土中に示された痕跡の調査から「刳り抜き式木棺」であると推定されます。

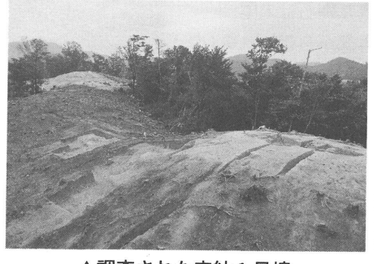
棺内の中央ちかくからは筒形銅器が１点出土しました。出土地点と周辺には赤色顔料が最も厚くまかれており、被葬者の頭部付近に置かれたものと推定されます。銅器表面には布の痕跡がよく残っており、布に包まれていたことがわかります。

筒形銅器は、長さ12.5㎝、径2.3～3.0㎝。青銅製の鋳造品で、一方の端がふさがった筒状の形をしています。端の部分と中央部が帯状にややふくらみ、その間に長方形の透かし穴が二段、四方向にあいています。

筒形銅器の出土数は、現在のところ日本で70点あまり、韓国で68点が知られています。西暦４世紀、倭の国(日本)と伽耶の国(韓国南部)の国際交流を知る貴重な資料の出土です。

定納古墳群は、荒廃した里山を地元の地権者から無償で借り受け、大学研究機関と行政機関で発掘調査し、ＮＰＯ法人やまんばの会とともに整備を進めています。

（宮崎幹也）


▲調査された定納１号墳

▲出土した筒形銅器

坂田郡のまつり　②

【山東町民俗文化財】志賀谷「華の頭」　［山東町］

新しい年の五穀豊穣と村の無事を祈る行事を、ここ湖北地方では「オコナイ」と呼び、毎年１月から３月にかけてほとんどの地区で行われます。

その中で志賀谷は昔ながらの格式を保持し続けている数少ない地区の一つです。

志賀谷の「オコナイ」は「華の頭」と呼ばれ、１月15日の玉くじから始まります。行事の主役であるネギ（禰宜）やトーヤ（頭家）が選ばれます。

月が変わって２月10日頃。まずは餅つきとハナツクリが行われます。餅つきは、タスキにハチマキ姿の４人が伊勢音頭に合わせながらつきます。つきあがると杵に餅を絡ませたまま駆け巡り、餅を放り投げるのです。

餅つきと平行して行われるハナツクリは、５ｍほどのケヤキの大枝の所々に藁を巻き、その上から餅を50カ所くらい巻き付けてマユダマとします。

翌日はクライマックスとも言える社参です。太鼓を先頭に村の志賀神社に参進します。社参式の際、ネギは御幣を３回振って「トン」と床を付き、「大願成就おめでとう」と祝福を述べるのです。

最後は〝活きているまつり〟である「オコナイ」を無事終えた人々により、直会（酒宴）が盛大に催され、次の年へと引き継がれていくのです。

（桂田峰男）

太尾山城跡（北城）発掘調査を実施　［米原町］

米原町教育委員会では一昨年に引き続き、太尾山城跡の発掘調査を実施しています。昨年の10月17日に現地説明会を開きましたので、その内容について報告したいと思います。

太尾山城は戦国時代の山城で、番場の鎌刃城と同じく、江北・江南の境目の城として重要や防衛拠点でした。今年度はその太尾山城跡の北城で発掘調査を実施したところ、主郭部分から礎石を伴う列石を検出しました。この列石の全長は2.4ｍで、６つの石が北西から南東方向に一列に並び、北東側に対して面を整えています。石の材質はチャートで、太尾山の地盤と同質のものです。

また、列石の北東側に近接して検出された礎石は太尾山からは産出されないもので、意図的に外部から運ばれてきたものです。つまり、建物を建てる基礎とするために運びこまれたものであると考えられます。

出土遺物には、カワラケと呼ばれる土師器がありました。南城で出土したものと時期的にも同じだったことから太尾山城跡の北城と南城は同時期に存在していたことが判明しました。このことは重要なポイントで、例えば一方の城が攻撃されたときに、もう一方の城から援軍を出すといった守り方が可能になります。２つの城でありながら、１つの城として守備することが可能であるこうした構造を「別城一郭」と言います。

今回の調査によって、太尾山城は「別城一郭」という守備の堅い構造を持ち、その上、礎石を据えたしっかりとした建物を備えていたことが判明しました。江北・江南の境目の城として重要な防衛拠点であったことが伺えます。

（高畑光昭）

地方史研究の魁　中川泉三『章斎文庫』調査　［山東町］

中川泉三氏は山東町大野木出身で、明治・大正・昭和にかけて出身地の旧坂田郡はもとより、『蒲生郡志』・『栗太郡志』・『愛智郡志』などの編纂により、滋賀県全体の歴史研究に深く関わった地方史研究家です。そして、当時の日本を代表する歴史研究家との交流も深く、〝地域史の編纂は中川に聞け〟と言われたその業績は、まさに現代につながる「地方史研究」の魁と言えるでしょう。

山東町では、中川泉三氏が伝承だけでなく史料を基に研究する「史料尊重主義」と、「史料現地保存主義」を基に調査研究し、筆写史料など残された膨大な史料を収めた『章斎文庫』について、平成12年度から調査を実施し、目録作成を行ってきました。また、調査の途中経過などを多くの方々の知っていただこうと、毎年報告会を開催しています。

今回、中川泉三氏の人柄や広範な交友関係、そして泉三氏が生きてきた時代を感じていただければと、「地方史の魁　写真展」―中川泉三氏の事績と人々―と題し写真展を下記のとおり開催しております。

また、中川泉三氏の地元である山東町大野木のデジカメクラブにより撮影された、泉三氏にゆかりのある史蹟の写真もあわせて展示しています。力作揃いですのでお楽しみください。

今回の写真展を通じて、地方史の解明に打ち込んだ中川泉三氏の〝生きざま〟と〝人柄〟、そして後世に与えた影響の大きさをお伝え出来れば嬉しいです。

（桂田峰男）

テーマ　「地方史の魁　写真展」
―中川泉三氏の事績と人々―

日　時　平成16年12月23日（祝）～
平成17年１月23日（日）
午前９時～午後９時まで

場　所　ルッチプラザ（山東町立町民交流プラザ）
２階　エントランス

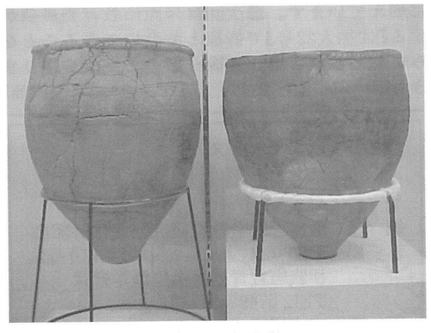
合わせ口甕棺出土状況模型を作りました　［伊吹町］

18号で紹介した杉沢遺跡の合わせ口甕棺は、非常に良好な状態で検出したことから、今年度、その出土状況の模型を作成しました。

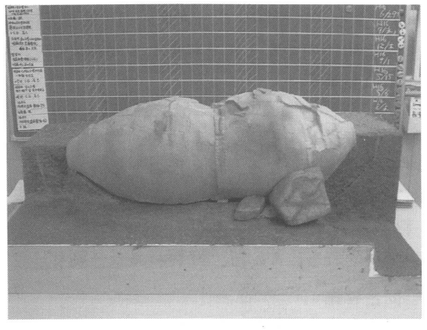
模型は、現物の甕棺から型取りをし、特殊なエポキシ樹脂を用いて作成しました。もちろん専門業者による仕事ですが、地形の造形には杉沢の出土地点に近い土砂を採集し、本物と見間違うばかりの出来具合となりました。

杉沢遺跡では、昭和13年以来、確認できるところでは合計11組の甕棺が出土しています。今回復元したのは10組目のもので、同時に出土した11組目は、現在接合作業を行なっています。

模型作成に伴い、甕棺に用いられていた土器２点も復元しました。どちらも90％以上の残存状況で、今後の調査研究に良好な資料を得ることができました。11組のうち３組目は長浜市立長浜城歴史博物館に、９～11組は伊吹山文化資料館で保管しています。　（髙橋順之）



▲復元した甕棺



▲製作中の模型